

肉体脳・各エーテル複体脳（思考）と魂・鏡（心・マインド）と真の私（意識）との関連推測図

（各種頭脳と繋がった魂、そしてその魂（魂のコアザル体として）を通じて発出されている根源からの映像である自我。その自我であり、サイコノエティック体を自己と錯覚したのが鏡であり心である魂であり自身の内奥に真の私があるのに、外部に私を求め続けている）

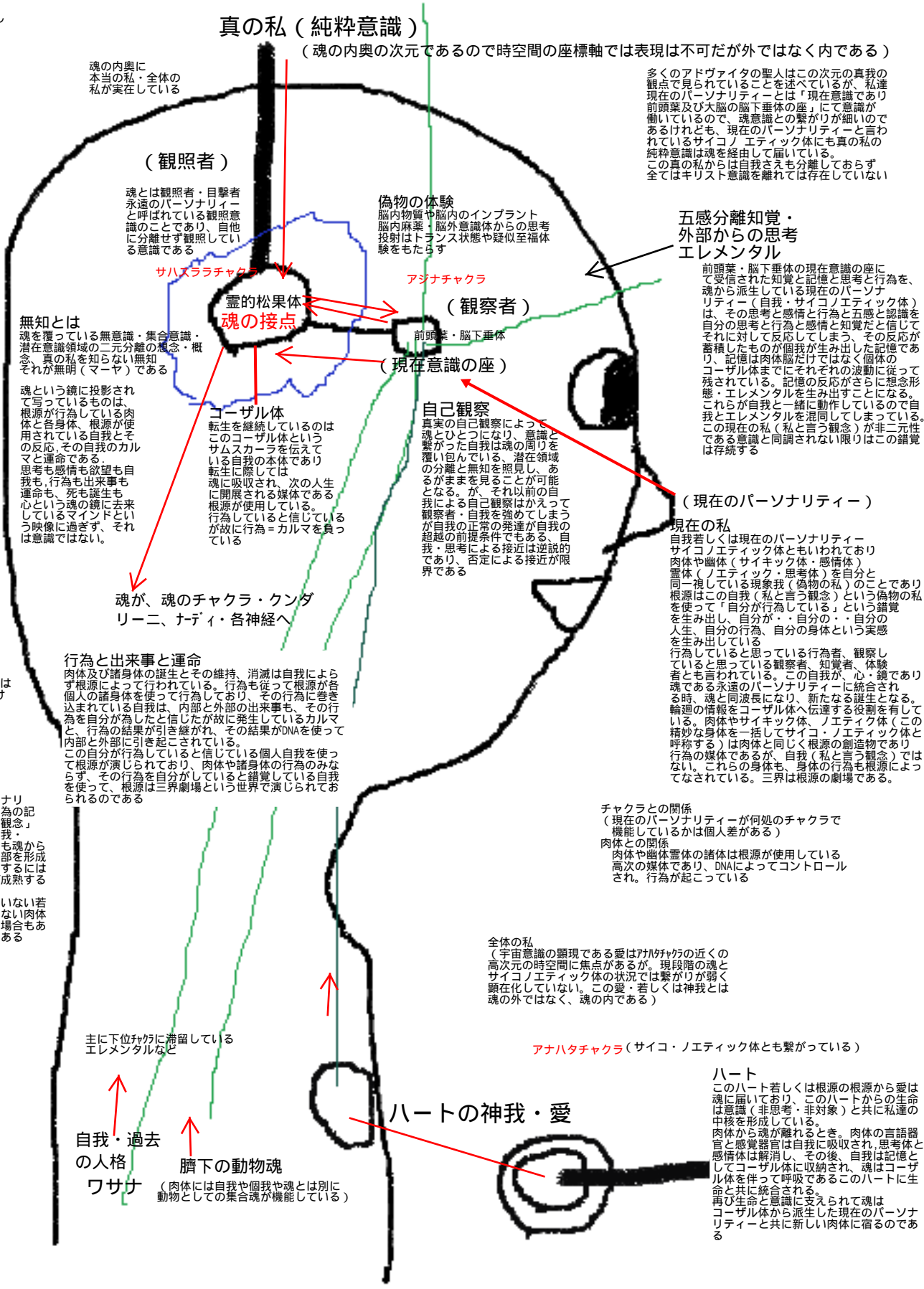
全てを自身として認識している真の私
真我は限りない魂を通じて現象界を投影し、かつ世界宇宙と全ての有情無情は自身と分離していない「汝はそれなり」と認識している。真我がなければ宇宙も宇宙を認識している私もない。二元は存在せず、真我が非分離、非対象、非思考のなかで世界宇宙を投影し、かつ自身として認識している。

あるがまま
もし、あるがままをあるがままに見ることが起きたときには、その見には分離している思考や二元の心はないのだから、全ては愛であり完全完璧であることだろう。思考はあるがままを見ておらず、従って心はあるがままを知らない。自我はあるがままを知らず、意識が自我をみたときあるがままがあるがままにある・・・と

魂（心・鏡）
根源は魂という鏡を通じて自身である世界を投影し、且つ認識している。その為に三界に於いては魂から自我である現在の私を投影し、その自我（私という観念）を用いて記憶し、自由意志を現しているが、その「私という観念」であり条件付けられた記憶の反応である自我は、自分が自由意志で行為し、思考して生きていると思込んでいる。実際に生きているのは根源であり、根源が「私という観念」の記憶体である自我を使って自ら演じられている

DNA操作
人類のエーテル複体の頭脳はDNAの操作等により条件付けられているので機能が不全であり高次の真の私の純粋意識と同調することが難しい

自我の発達
自我である現在のパーソナリティーは思考と感情と行為の記憶体でもあり「私という観念」から成り立っている。自我・現在のパーソナリティーも魂から派生しておりマアヤの一部を形成している。マアヤを照見するにはマアヤ自身である自我が成熟する必要がある。この自我が未だ育成していない若しくは自我が存在していない肉体と諸体だけの人格がある場合もあるのがこの地球の現状である



魂の内奥に本当の私・全体の私が実在している

真の私（純粹意識）

（魂の内奥の次元であるので時空間の座標軸では表現は不可だが外ではなく内である）

多くのアドヴァイタの聖人はこの次元の真我の観点から見られていることを述べているが、私達現在のパーソナリティーとは「現在意識であり前頭葉及び大脳の脳下垂体の座」にて意識が働いているので、魂意識との繋がりが細いのであるけれども、現在のパーソナリティーと言われているサイコノエティック体にも真の私の純粋意識は魂を経由して届いている。この真の私からは自我さえも分離せず、全てはキリスト意識を離れては存在していない

（観照者）

魂とは観照者・目撃者 永遠のパースナリイヤーと呼ばれている観照意識のことであり、自我に分離せず照照している意識である

偽物の体験 脳内物質や脳内のインプラント 脳内麻薬・脳外意識体からの思考 投射はトランス状態や疑似幸福体験をもたらす

五感分離知覚・外部からの思考 エレメンタル

前頭葉・脳下垂体の現在意識の座にて受信された知覚と記憶と思考と行為を、魂から派生している現在のパーソナリティー（自我・サイコノエティック体）は、その思考と感情と行為と五感と認識を自分の思考と行為と感情と知覚だと信じてそれに対して反応してしまう、その反応が蓄積したものが自我が生み出した記憶であり、記憶は肉体脳だけではなく個体のコアザル体でもにそれぞれが波動に従って残されている。記憶の反応がさらに想念形態・エレメンタルを生み出すことになる。これらが自我と一緒に動作しているため、自我とエレメンタルを混同してしまっている。この現在の私（私という観念）が非二元性である意識と同調されない限りはこの錯覚は存続する

（観察者）

前頭葉・脳下垂体

（現在意識の座）

自己観察 真実の自己観察による魂とひとつになり、意識と繋がった自我は魂の周りを覆い包んで、潜在領域の分離と無知を照見し、あるがままを見ることが可能となる。が、それ以前の自我による自己観察はかえって観察者・自我を強めてしまうが自我の正常の発達か自我の超越の前提条件でもある、自我・思考による接近は逆説的であり、否定による接近が限界である

（現在のパーソナリティー）

現在の私 自我若しくは現在のパーソナリティー サイコノエティック体ともいわれおり 肉体や幽体（サイキック体・感情体）を同一視している現象我（偽物の私）という根源はこの自我（私という観念）という偽物の私を生み出し、自分が行為している、という錯覚を生み出し、自分の行為、自分の身体という実感を生み出している行為と信じている行為者、観察者とも言われている。この自我が、心・鏡であり魂である永遠のパースナリイヤーに統合される時、魂と同波長になり、新たな誕生となる。輪廻の情報をコアザル体へ伝達する役割を有している。肉体やサイキック体、ノエティック体（この精妙な身体を一括してサイコ・ノエティック体と呼称する）は肉体と同じく根源の創造物であり行為の媒体であるが、自我（私という観念）ではない、これらの身体も、身体はもと根源によってなされている。三界は根源の劇場である。

サハスララチャクラ

アジナチャクラ

霊的松果体

魂の接点

ココロザル体

転生を継続しているのはこのココロザル体というサムスカラを伝えている自我の本体であり転生に際しては魂に吸収され、次の人生に展開される媒体である根源が使用している。行為して信じているが故に行為=カルマを負っている

魂が、魂のチャクラ・クンダリーニ、ナディ・各神経へ

行為と出来事と運命

肉体及び諸身体の誕生とその維持、消滅は自我によらず根源によって行われている。行為も従って根源が各個人の諸身体を使って行為しており、その行為に巻き込まれている自我は、内部と外部の出来事も、その行為を自分が為したと信じたが故に発生しているカルマと、行為の結果が引き継がれ、その結果がDNAを使って内部と外部に引き起こされている。この自分が行為していると感じている個人自我を使って根源が演じられており、肉体や諸身体は行為のみならず、その行為を自分がしていることと錯覚している自我を使って、根源は三界劇場という世界で演じられるのである

チャクラとの関係（現在のパーソナリティーが何処のチャクラで機能しているかは個人差がある）
肉体との関係 肉体や幽体霊体の諸体は根源が使用している高次の媒体であり、DNAによってコントロールされ、行為が起こっている

全体の私（宇宙意識の顕現である愛はアハハヤの近くの高次元の時空間に焦点があるが、現段階の魂とサイコノエティック体の状況では繋がりが弱く顕在化していない。この愛・若しくは神我とは魂の外ではなく、魂の内である）

アナハタチャクラ（サイコ・ノエティック体とも繋がっている）

ハートの神我・愛

ハート このハート若しくは根源の根源から愛は魂に届いており、このハートからの生命は意識（非思考・非対象）と共に私達の中核を形成している。肉体から魂が離れるとき、肉体の言語器官と感覚器官は自我に吸収され、思考体と感情体は解消し、その後、自我は記憶としてココロザル体に収納され、魂はココロザル体を伴って呼吸であるこのハートに生命と共に統合される。再び生命と意識に支えられて魂はココロザル体から派生した現在のパーソナリティーと共に新しい肉体に宿るのである

主に下位チャクラに滞留しているエレメンタルなど

自我・過去の人格 ワサナ

膺下の動物魂（肉体には自我や個我や魂とは別に動物としての集合魂が機能している）